

第8回 第6次羽咋市総合計画 審議会 会議録

日時 令和2年12月17日(木) 19時～20時30分

場所 羽咋市役所4階 401会議室

出席者 市長

各審議会委員(欠席5名)

アドバイザー 金沢大学 佐無田教授

市側出席者

[事務局]

総務部長 川口 哲治

企画財政課長 山本 裕一

企画財政課課長補佐 松田 義人

企画財政課主事 長浦 達夫

会議傍聴者 なし

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 審議事項

(1) 第6次羽咋市総合計画(案)について

事務局から計画(案)全体の説明後に質疑応答

全体を通じての各委員からの所感

【委員】

前回までの審議会が開かれた、ワークショップ形式で出されたひと・まちづくりについての意見がよくまとめられていると思う。

【委員】

計画についての意見は特になし。

若い世代の方とワークショップ形式で議論ができたことは良い経験となった。

【委員】

計画策定の機会に携われて、自分の知らない羽咋を知ることができた。

基本計画の内容について重要度が高いことをわかりやすくした方が良いのではと思う。

【委員】

計画案についての意見はなし。

今回の計画では、第5次計画をベースに、その後の社会の流れ（少子化対策や持続可能な成長戦略、防災対応など）が組み込まれていると思う。

具体的な施策について市議会や市役所、産業界、市民それぞれの立場で関わられたらと思う。

【委員】

これまでの審議会でのたくさんの意見があったが、計画にまとまっていると感じた。

P27の基本目標に記載されている項目で、活字が小さいものがあるが、統一性を持たせれば、見る人にとっても同じ価値ある目標であると認識できるのではないか。

【委員】

特に関心のある教育関係の審議会に出られなかったのは残念ではあったが、幅広い議論ができたと思う。

【委員】

委員の皆様の方の今までの審議会の意見がよくまとめられた計画であると思う。

用語の解説が巻末にあるのが、わかりやすくして良いと思う。

成果指標には、具体的数値が入っているが、十分検討されているか？

【事務局】 各担当課で十分検討したうえでの数値となっている。

【委員】

総合計画策定の中では、ポジティブな意見を出して、未来につなげていくことが必要ではあるが、目標達成に向けては、羽咋市だけではなかなか難しいものもあると思う。特に、脱炭素社会実現や、医師の数を増やすことなど、国全体の流れに寄与するものもあると思う。

外国人の方との多文化交流を増やすともあるが、目標に掲げるなら、今後より具体的な活動を是非行っていただいで PDCA サイクルで見直しも行って欲しい。

【委員】

JA 職員として幅広い方と関わる中で、特に移住者の話を聞くと、より羽咋市の魅力を感じとることができる。そういった中で、総合計画は上手くまとまって

いると思うが、成果目標について、各課で作られ幅広く記載があるが、より羽咋の目指しているところを、ポイントごとに絞った目標ができてくると良いと思う。

そういったものが、羽咋にいる若い世代が「何かやってみたい」羽咋への移住に興味ある方にも、より関心を持ってもらうことにつながると思う。

P. 57 「自然栽培産物」→「自然栽培農産物」にした方がよいのでは？

【委員】

審議会では若い女性の参加・意見はあったが、若い男性の参加が少なく、今後取組の主体となる若い男性に計画の意義を伝えていきたい。

計画は作って終わりではなく、どうやってチェックしながら計画を進めていくかが重要なので、もう少し若い世代の男性には危機感を持ってもらいたい。

ただ計画策定にはどの世代でも真剣に関わっていききたいという思いは伝わってきた。

【委員】

計画策定にあたっては、昔から羽咋市にいる方を中心に行われましたが、今後は羽咋へ来たいと思っているような人の身近な声も取り込んでいけたら思った。

【委員】

総合計画は、幅広い分野の目標があり、達成することは大変だなという印象を改めて実感した。

今後は、この計画にある、ひと・まちづくりの特に「ひとづくり」をがんばっていききたいと思った。

【委員】

一般公募では若い女性の参加はあったが、20代ぐらい男性の参加もあればよかったと考えている。

【委員】

今までのまちづくりの印象は市役所が進めている印象だったが、この計画でひとづくりの点が押し出されたことは、今後10年間で楽しみだなと思った。

この計画を元に市民の皆さんもこれからは、自らやってみようという風に思ってくれるとうれしいと思う。ただやってみようと思う人でも、どうしていいかわからないことが多いので、市でサポートして行って「はくいびと」を育てて欲しい。

【委員】

いろいろな人の意見が聞けて勉強になった。これからも羽咋の良さをアピー

ルして、少しでも掛橋になっていければと思った。

【委員】

4年前に東京から移住してきたが、計画審議会では、毎回市民憲章を唱和していたが、今回の計画を見直すと、その市民憲章の内容からブレていないと実感した。40年前も前からあるものということだが、その点、軸がしっかりしている市であるという印象を受けた。

自然栽培農家として、P.57にある、施策の方針 農水産物の生産支援に関して、取り組み内容に具体的なアクションが記入されていないが、より具体的な取り組みについても話し合いがなされていると思うので、そちらの内容も提供して欲しい。

【委員】

策定した計画を見ると、大きな仕事に携わっていると実感しました。

また、審議会では、委員の皆さんの羽咋市に対する熱い気持ちを感じ取ることができた。

これからを支えていく20代の方の参加があればより良いと感じた。

昔から羽咋市に携わってきた方と若い方の交流の場が増えれば、さらに羽咋市はよくなると感じた。

【委員】

今回審議会に参加して、羽咋をよりよく知ることができたし、もっと多くの人に羽咋市の良さを知ってもらえればいいなと実感した。

【委員】

計画に携わって、いろいろな意見が聞けて良かった。

今回の計画に「ひとづくり」が挙がってきたことが良かったが、もう少し前面に出てきてもよかったのではないかと思った。計画に関しては、市民に知れ渡っておらず、市民と行政がかけ離れているところを感じるので、これからの10年で市民と行政が密接になっていけば、「ひとづくり」の形が現れていくと思う。

ひとが何よりの資源だと感じているので、それが生かされる10年になるといいなと思った。

【佐無田アドバイザー】

日本経済を見ると、ここ30年間あまり変わらなかった。

しかし、この先10年は変わっていくと感じている。

今回の総合計画では「まちづくり」だけではなく、「ひと」に焦点を当てて

いる。

市民が関わっていくことで、まちが変わっていくことが新しいと思った。

他の地域では総合計画に関わったことがあります、そのあと地域を引っばっていきまちづくりのリーダーになっていったところもある。

この審議会は、市の方向性を決定する場であるため、羽咋市でもそういった人がでてきてくれることを今後期待したい。

修正意見

- ・策定の経緯をもう少し細かく書いて、ワークショップの過程や、審議内容について記載した方がよい。
- ・内容については、第6次計画と第5次計画を並べると、第5次計画は、インフラ重視で作られており、そこから第6次計画で大きく変わる部分が「ひとづくり」なので、理念の部分で大きく掲げて良いのでは感じた。
(P.1 第1節～第2節 まちづくりの記載が多い)
- ・第6次計画のポイントは、「ひとづくり」であり、人を育てていくことが柱になり、まちを作っていくことなので、今日の委員の意見を聞いて、改めてそう感じた。
- ・第3部は、各課で施策を盛り込むため、総花的になりやすい。
ここで全体を通じてこんなまちにしたいというストーリーが見えると、市民にとって親しみやすい計画になるかなと思った。
また、語尾が「必要があります」となっている箇所が多い。
現状やっていることと、今後やっていく必要があることで語尾を変えていったほうがよい。(現状と課題を分けることでわかりやすくなる)

委員およびアドバイザーの意見を踏まえ、事務局で修正のうえ、会長に一任することを了承。

12月中に、会長および副会長で日程調整のうえ、市長へ答申することについても了承。

(2) 第6次羽咋市総合計画に関する事項についての諮問に対する答申

事務局から説明後に質疑応答

【委員】

2. 3の文章内の「まちづくり」部分を「ひと・まちづくり」に変更

【委員】

巻末用語の解説に記載ある言葉(*)の表記の統一を図った方がわかりやすい

【事務局】

統一して表記するよう調整する。

【委員】

3. 「自己決定と自己責任」とは、誰の事なのかがわかりにくい。

【事務局】

行政主体のように聞こえるため、市民の総意としての意味合いの言葉に置き換える。

4. 今後のスケジュールについて

【事務局】

- ・ 12月中に市長へ答申を行う予定
- ・ 1月市民からのパブリックコメントを行うとともに、市議会にも意見をもらい、修正を加えたうえで、市議会3月定例会に議案として上程する。

【川口総務部長からあいさつ】 (省略)

5. 閉会（会長あいさつ）

この審議会を通じて、6次計画の審議会は、各委員から多くの意見をいただいたと感じている。ワークショップ形式が多かった点でも意見が出やすかったのではないかと思う。

また、審議会各回の議事録が作成され、各委員に共有されていた点が良かった。それで佐無田先生や委員の意見を振り返ることができ理解にもつながったと考えている。

丸一年にわたり審議会を開催し、計画案が策定できたことは、佐無田先生、委員の皆さん、事務局の方の支援の賜物と感じている。

本当にありがとうございました。

【閉会】